

26日の東京株式市場では日経平均株価が3日続伸し、約1カ月半ぶりに1万4600円台を回復した。相場全体が底堅さを取り戻す中でも、上げが目立つたのが国際会計基準（IFRS）を適用している銘柄だ。海外企業との業績比較が容易であることから、海外投資家がIFRS適用銘柄を選好する動きが広がっている。

存在感増す国際会計派

26日の株式相場はほぼ全面高。円安や前週末の米株高を好感した買いが広がった。もつとも商いは薄く、東証一部の売買代金は約1カ月ぶりの低水準にとどまつた。「6月6日発表の米雇用統計など重要イベントを前に様子見ムードは強い」（三菱UFJモルガン・スタンレー証券の荒井誠治シニア投資ストラテジスト）との指摘もある。

日経平均の前週末比1%高を超えて上昇したのが富士通株。3%高の693円まで買われ年初来高値を更新した。アステラス製薬株も一時2%高の1311円と年初来高値をつけた。両銘柄に共通するのはIFRSの適用だ。IFRSは歐州をはじめ100以上の国や地域で採用されている会

計基準。のれんの償却方法などが日本基準と異なる。

富士通は2014年4月

スクランブル



「比較容易」海外が評価

呼び込みに期待を示す。IFRSを導入する日本企業は増えている。東証の集計では、適用企業は5月

13日時点で17社、適用予定企業は22社にのぼる。

野村証券によると、適用

企業と適用予定企業をあわ

せた時価総額は3月末時点

で上場企業全体の約13%を

占める。野村嘉浩シニアス

トランジストは「国際的な

事業展開があり、海外企業

との財務数値の比較可能性

を高めたい意欲が強い企業

ほど積極的に導入してい

る。時価総額や業績の規模

でみると、社数以上に存在

感は大きい」と話す。

IFRS適用は株価にも

効果をもたらしている。大

和証券が適用企業17銘柄の

だけが株価の上昇要因とい

うわけではない。業績や配

当といった重要な情報を国

際間で比較可能な形式によ

って分かりやすく伝えたい

ところ、14年4月末

過去3年間の累積上昇率を

調べたところ、4月以降の直近1年間の値

点で74%と、東証株価指

数（TOPIX）の36%を

大きく上回った。特に13年

4月以降の直近1年間の値

上がりが目立つ。目野博之

クオンツアナリストは「自

己資本利益率（ROE）の

ことは、株式相場を長期的に

高い銘柄が上昇した後、さ

押し上げる要因となる可

能性がある。

（丸山修二）